

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名 国道258号 <small>だいそう</small> 大桑道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 中部地方整備局
起終点 自：岐阜県大垣市楽田町 <small>おおがき がくでんちょう</small> 至：三重県桑名市大字小貝須字柳原 <small>くわな おおあざこがいすあざやなぎはら</small>		延長 41.6 km
事業概要 本事業の国道258号大桑道路は、岐阜県大垣市を起点として三重県桑名市に至る延長約42kmの主要幹線道路であり、交通混雑の緩和、物流効率化の支援の2点を主な目的として事業を推進しています。		
S40年度事業化	S43年度都市計画決定 (平成8年度一部変更)	S40年度用地着手
S40年度工事着手		
全体事業費	310億円	事業進捗率
		86%
		供用済延長
		41.6 km (暫定供用済み)
計画交通量	26,500台/日	
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.2 (残事業) 1.9	総費用 (残事業)/(事業全体) 194/730億円 (事業費：51/589億円) (維持管理費：144/144億円)
		総便益 (残事業)/(事業全体) 367/1,641億円 (走行時間短縮便益：347/1,621億円) (走行経費減少便益：12/13億円) (交通事故減少便益：7.0/6.7億円)
		基準年 平成22年
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施		
交通量変動	: B/C=1.7 (交通量-10%) B/C=2.1 (交通量+10%)	
事業費変動	: B/C=1.8 (事業費+10%) B/C=1.9 (事業費-10%)	
事業期間変動	: B/C=1.8 (事業期間+20%) B/C=1.9 (事業期間-20%)	
事業の効果等		
①円滑なモビリティの確保		
・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。		
・特急停車駅（近鉄電車（桑名駅））へのアクセス向上が見込まれる。		
②物流効率化の支援		
・大垣市から四日市港へのアクセス向上が見込まれる。		
・県内生産の農林水産品の流通の利便性の向上が見込まれる。		
③国土・地域ネットワークの構築		
・日常活動圏中心都市の大垣市～四日市市、海津市～大垣市のアクセス向上が見込まれる。		
④個性ある地域の形成		
・東海ものづくり創生プロジェクト（愛知・岐阜・三重）、東海バイオものづくりプロジェクト（愛知・岐阜・三重）の支援が見込まれる。		
・長島リゾート、多度大社、千代保稲荷神社、木曾三川公園、養老公園、ソフトピアジャパンなどの主要な観光地へのアクセス向上が見込まれる。		
⑤安全で安心できる暮らしの確保		
・三次医療施設（大垣市民病院～大桑クリニック）へのアクセス向上が見込まれる。		
⑥災害への備え		
・第一次緊急輸送道路に位置付けられている。		
⑦地球環境の保全		
・CO2排出量の削減が見込まれる。		
⑧生活環境の改善・保全		
・NO2排出量の削減が見込まれる。		
・SPM排出量の削減が見込まれる。		
関係する地方公共団体等の意見		
・桑名市など地元商工会、観光協会などで構成される「桑名地域の幹線道路整備を進める会」より早期整備の要望を受けている。【平成20年8月】		
・「中部圏開発整備法」（昭和41年7月）に基づき、中部圏の開発整備に地元の総意を反映させる仕組みとして、昭和41年11月に設置された「中部圏開発整備地方協議会」（9県（関係県：富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀県）3市（関係指定都市：名古屋、静岡市、浜松市）より構成）より早期整備の要望を受けている。【平成20年12月】		

岐阜県・三重県の意見

・岐阜県

対応方針（原案）案のとおり、事業の継続をお願いします。

なお、事業の実施にあたっては、引き続き本県と十分な調整をしていただくとともに、コスト削減の徹底をお願いします。

・三重県

対応方針（原案）のとおり、事業の継続をお願いします。

なお、今後も引き続き、本県と十分な調整をしていただき、暫定2車線の早期4車線化に向けた事業の推進をお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

「事業継続」することは「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・ 渋滞損失時間は三重・岐阜県内の国道平均を大幅に上回っており、円滑な交通が阻害されている。
- ・ 国道258号大桑道路周辺や西濃・滋賀からスーパー中樞港湾（四日市港・名古屋港）への物流軸を担う産業道路として、国道258号大桑道路は機能しているが、渋滞により円滑な物流が阻害されている。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・ 国道258号大桑道路L=41.6kmの全線において供用。（完成26.6km、暫定15.0km）
- ・ 事業進捗率は86%、用地取得率は99%（平成22年度末見込み）。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・ 調査・設計及び関係機関との協議を推進し、暫定2車線区間について早期4車化を目指す。

施設の構造や工法の変更等

- ・ 擁壁設置位置の見直しにより構造物の小規模化及び通行止め回避等を実施し、コスト削減を図る予定である。
- ・ 国道258号大桑道路は、地形、土地利用状況、主要幹線道路との接続などを勘案した路線計画となっており、交通混雑の緩和や物流効率化の支援など、期待される効果が大きい合理的な計画であるため、計画の変更は困難。

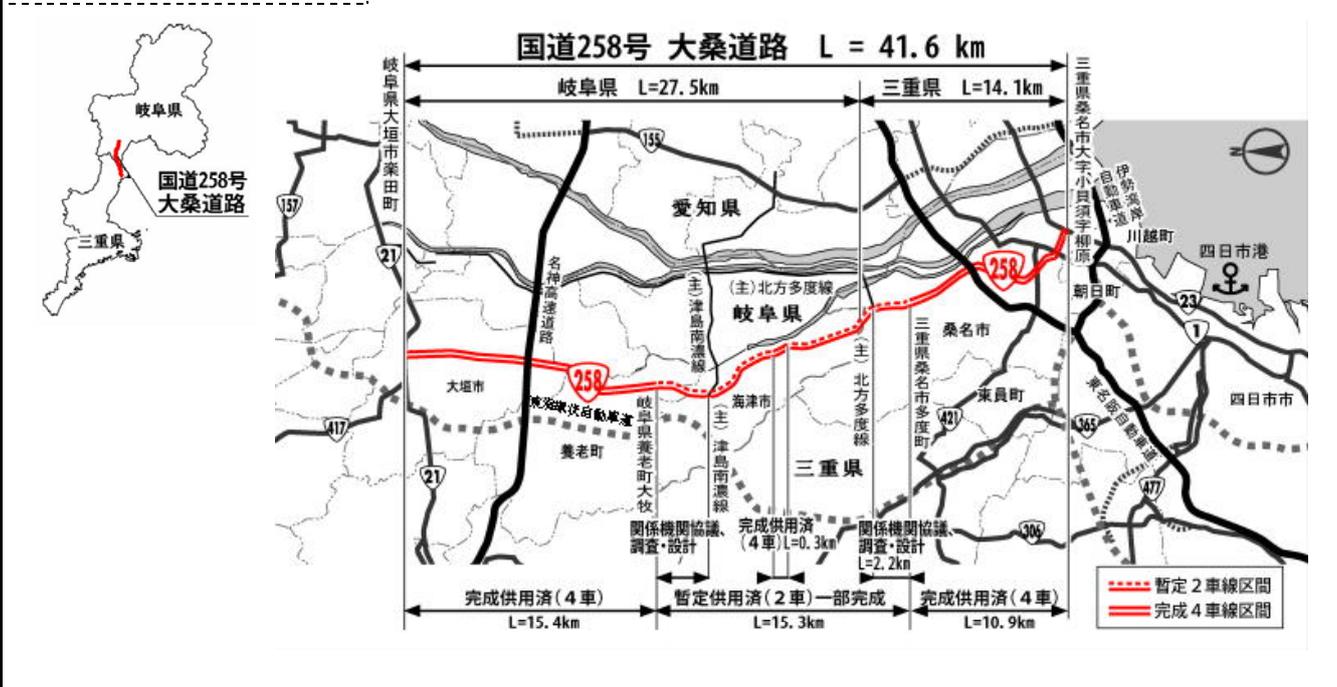
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・ 以上の点を勘案し、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。